

# 福岡県みやま市様から「みやま市バイオマスセンター建設工事」を受注しました。

みやま市バイオマスセンターは、家庭や事業系の生ごみ、し尿・浄化槽汚泥を受け入れ 資源化する施設となります。メタン発酵で発生したメタンガスを利用してコジェネ発電し、施設電力として活用します。メタン発酵後の液体は、液体肥料として水稲、麦などの栽培に利用される予定です。

本施設の建設には小学校の跡地を有効活用し、旧校舎は環境学習の場や地域住民の憩い・集うための施設として活用されます。



「みやま市バイオマスセンター／完成予想図」



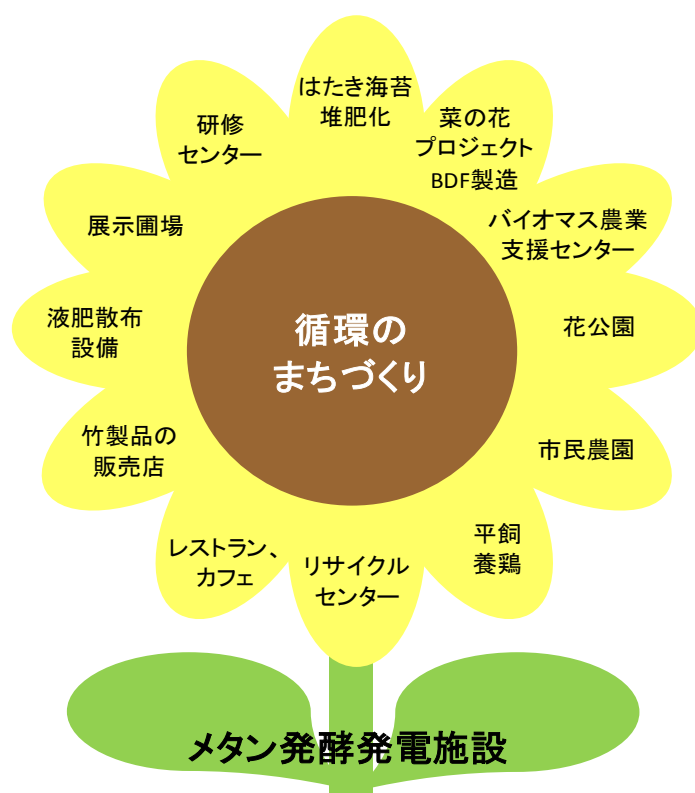
「サテライト／完成予想図」

施設名称	みやま市バイオマスセンター
発注者	みやま市
受注者	三井造船環境エンジニアリング・中原電工共同企業体
処理量	130t／日（し尿42t／日、浄化槽汚泥78t／日、 家庭系生ごみ5.3t／日、事業系生ごみ2.3t／日、 産業系食品廃棄物2.3t／日）
資源化方式	資源化：メタン発酵（湿式・中温方式）
工期	平成28年6月～平成30年9月

[トピックス一覧に戻る](#)

# みやま市バイオマス産業都市構想 概要版

山・川・大地・海・空  
～資源循環のまちに生きる～



平成26年7月

みやま市

# バイオマス産業都市構想の将来像

## 構想の将来像

生ごみ・し尿・浄化槽汚泥のメタン発酵発電・液肥化施設を拠点に、BDF製造等のバイオマス資源化設備や研修施設等を施設周辺に展開し、「資源循環のまちづくり」による、産業振興・雇用創出を図ります。また、近隣市町のバイオマス資源化施設等との連携による「災害に強いまちづくり」を目指します。



## 波及効果

廃棄物処理施設ではない、資源循環の施設にすることにより、様々な展開が可能になります。今後全国の自治体で、焼却炉、し尿処理施設の建て替え時期を迎える中、本市の取り組みは、循環型社会の具体性を示す先導性が高いと考えられます。人口4万人規模で消化液の全てを液肥利用している事例はなく、先進的な事例となります。

## 10年後のバイオマス目標利用量及び目標利用率

バイオマス	賦存量 (トン/年)	目標利用量(トン/年)		目標利用率(%)		
		【現行】	【10年後】	【現行】	【10年後】	増減
生ごみ・食品廃棄物	4,650	0	3,000	0	65	65
廃食用油(植物性)	64	6	10	9	16	6
し尿・浄化槽汚泥	39,646	2,276	39,646	6	100	94
紙おむつ	604	0	175	0	29	29
低位品質海苔(はたき海苔)	210	0	210	0	100	100

# これまでの取組経緯

## 各種バイオマスにおけるこれまでの取組概要

生ごみ・し尿・浄化槽汚泥	H24.5～	「柳川市・みやま市一般廃棄物処理施設整備連絡協議会」の設置 ⇒ 共同処理施設建設の協議開始
	H24.10～ H25.3	「再生可能エネルギー導入可能性調査」の実施 ⇒ <u>生ごみ・汚泥系メタン発酵発電を利用した資源循環プロジェクトを選定</u>
	H25.9～ H26.3	「生ごみ・し尿汚泥系メタン発酵発電設備導入可能性調査」の実施 ⇒ 生ごみ収集・液肥散布モデル事業や生ごみ分別によるメタン発酵施設導入の総合評価を行い、 <u>メタン発酵施設の導入効果が高いと判断</u>
	H25.11	「みやま市一般廃棄物資源循環基本計画」の策定 ⇒ <u>生ごみの資源化(メタン発酵発電・液肥化)を盛り込んだ目標を設定</u>
	H26.6	「柳川市・みやま市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(統合版)」の策定
品質劣化海苔	H24.6～ H26.3	はたき海苔有効利用研究会による「はたき海苔有効利用について」研究事業 ⇒ 加工技術の検討・肥料効果等について研究。水分調整が課題
	H26.9～	「新ごみ処理施設の排熱を利用した有明海はたき海苔の処理検討協議会」の設置
紙おむつ	H26.9～	「紙おむつ回収モデル事業」の実施
廃食用油 菜の花	H24.11～	「菜の花プロジェクト」の実施
	H26.8	「菜の花オイル」の販売開始

## 生ごみ・し尿汚泥系メタン発酵発電設備導入可能性調査

メタン発酵施設により、焼却施設建設費の12%削減、ごみ処理コストの33%削減、雇用創出26名等を総合評価し、生ごみ資源化の効果が高いことが明らかとなりました。

項目		生ごみ分別なし	生ごみ分別
		焼却炉のみ	し尿処理場廃止 焼却炉+メタン新設
借入金(建設費)	評価	◎	△
	事業費	12.8億円※	16.3億円※
ごみ処理経費	評価	△	◎
	総額	5.74億円/年	3.81億円/年※
エネルギー収支 (原油換算値)	評価	△	◎
	現状からの削減量	-405 kℓ/年	-912 kℓ//年
CO <sub>2</sub> 削減効果	評価	△	◎
	現状からの削減量	-852 トン/年	-2,012 トン/年
雇用創出	評価	△	◎
	新規雇用人数	+6名	+26名
埋立処分場の延命	評価	△	◎
	延命年数	0年	+1.5年
液肥利用による 農家支出削減	評価	×	◎
	散布面積	0 ha/年	410 ha/年
みやま市のまちづくり	評価	△	◎
総合評価		9点	22点

評価の点数：◎3点、○2点、△1点、×0点 ※H26.7のメーカーヒアリング調査結果等を反映

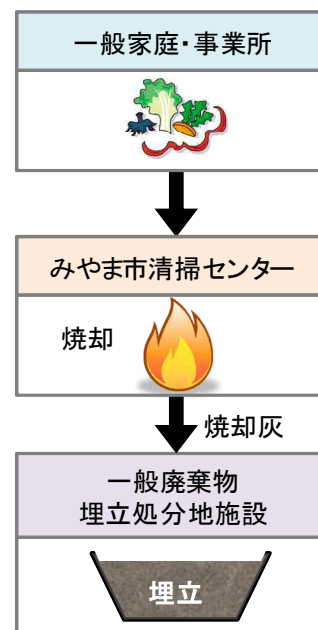
# バイオマス利用の現状・課題

## 廃棄物系バイオマス利用の現状・課題

### ◎ 食品廃棄物

#### 【家庭系・事業系生ごみ・産業系生ごみ】

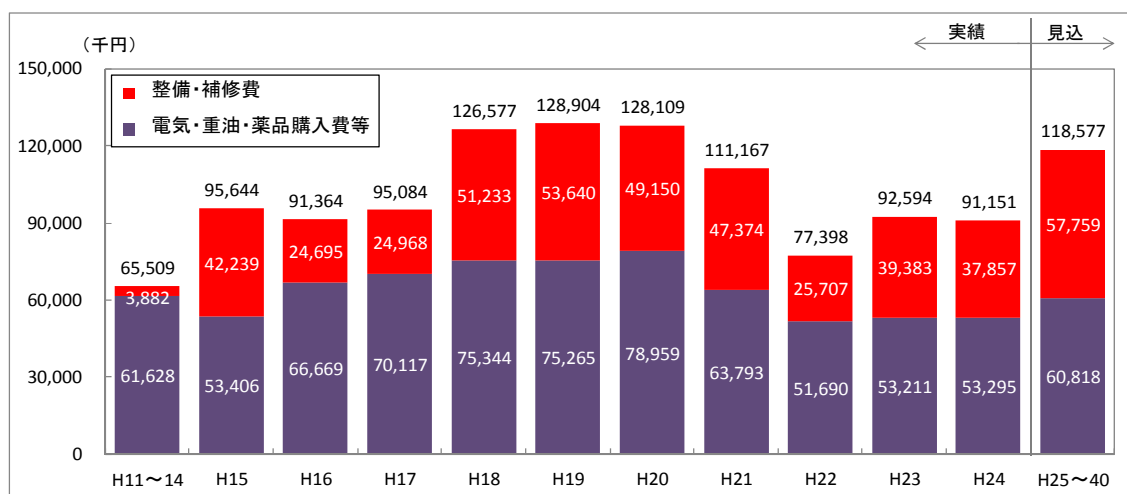
- ◆ 家庭系・事業系生ごみは、可燃ごみとして「みやま市清掃センター」で焼却し、焼却後の灰を「一般廃棄物埋立処分地施設」に埋め立てしています。
- ◆ 「みやま市清掃センター」は、稼働開始より約 20 年が経過し老朽化していることから建て替えの時期に差し掛かっています。そのため、柳川市と合同で焼却場を整備する計画を進めているところです。
- ◆ 「一般廃棄物埋立処分地施設」は、処理容量に限界があるため、長く利用するためにはごみの焼却量を削減する必要があります。
- ◆ 産業系生ごみは、ごみの量を削減するための新たな利用方法の考案が課題となっています。生ごみの成分に応じた適切な処理方法が必要となります。



### ◎ 汚泥

#### 【し尿、浄化槽汚泥】

- ◆ し尿・浄化槽汚泥は、「飯江川衛生センター」で浄化処理し、浄化後の汚泥を焼却処理（一部堆肥化）しています。
- ◆ 稼働開始より約 15 年が経過しており、今後の使用には改修工事等が必要となり、これまで以上の整備費や補修費が毎年かかり続けると予測されるため、新たな処理方法の考案が課題となっています。



# バイオマス利用の現状・課題

## 未利用系バイオマス利用の現状・課題

### 【品質劣化海苔（はたき海苔）】

- ◆ 本市の主要な水産業である海苔の養殖において発生する品質劣化海苔（はたき海苔）は多大な経費をかけ脱塩、脱水、乾燥されていますが、その多くは流通に乗らず焼却処分されているのが現状です。



## 現状のバイオマス利用の賦存量・仕向量

バイオマス		賦存量 (トン/年)	変換・処理方法	仕向量 (トン/年)		利用率 (%)	
				利用・販売			
食品 廃棄物	家庭系・事業系生ごみ	3,360	焼却・埋立	0	—	0	
	産業系生ごみ	1,290	産廃処分	0	—	0	
	廃食用油（植物性）	64	資源化	6	燃料等	9	
家畜 排せつ物	乳用牛ふん尿	3,873	堆肥化	3,873	農地還元	100	
	肉用牛ふん尿	6,394		6,394		100	
	豚ふん尿	4,273		4,273		100	
	鶏ふん	5,720		5,720		100	
汚泥	し尿	19,247	浄化・河川放流、 一部を堆肥化	2,276	農地還元	6	
	浄化槽汚泥	20,399					
木質 工業系 残材	建築廃材	4,947	チップ化	4,947	熱利用、 パーティクル ボード原料	100	
	土木残材	1,006		1,006		100	
	造園剪定枝	400		400		100	
	公園剪定枝	152	現地で整理のみ	0	—	0	
	果樹剪定枝	3,170		0	—	0	
その他	紙おむつ	し尿	焼却・埋立	0	—	0	
		紙		114		0	0
	紙類	3,898	焼却・埋立、資源化	1,086	再生紙等	28	
	可燃粗大（木・竹類）	509	焼却・埋立	0	—	0	
合計		79,306		29,982		63	
未利用 バイオマス	農業系	稲わら	すき込み等	9,791	農地還元	100	
		麦わら		5,739		5,739	100
		もみがら		1,828		1,828	100
		野菜等非食用部		59		59	100
	水産系	低品質海苔	210	脱塩・乾燥・焼却	0	—	0
木質系	林地残材	896	現地で整理のみ	0	—	0	
	竹	4,027		0		0	
合計		22,551		17,417		85	

# 事業化プロジェクトの全体概要

## 事業化プロジェクト

本構想では、本市のバイオマス利用の現状と課題等を踏まえ下記表Ⅰ～Ⅴの5つのプロジェクトを掲げます。

### 「Ⅰ メタン発酵発電液肥化プロジェクト」

これまで未利用であった有機性廃棄物（生ごみ、し尿・浄化槽汚泥）のエネルギー化・資源化を5年以内に具体化し、地域資源の有効活用、再生可能エネルギーの創出、資源循環型社会の構築を目指すとともに、雇用の創出と農業振興を推進します。

### 「Ⅱ 紙おむつ資源化プロジェクト」

これまで焼却されていた紙おむつの資源化を5年以内に具体化し、少子高齢社会に向けたごみ処理対策を実施します。

### 「Ⅲ BDF製造プロジェクト」

廃食用油のBDF化及び菜の花プロジェクト・菜種油精製を10年以内に具体化し、再生可能エネルギーの創出、観光資源としての地域活性化及び農家所得の向上を目指します。

### 「Ⅳ はたき海苔資源化プロジェクト」

はたき海苔の資源化（堆肥化・飼料化）を10年以内に具体化し、地域資源の有効活用、地場産業の活性化を目指します。

### 「Ⅴ 木質熱利用プロジェクト」

公共施設等を対象に木質資源を活用した木質バイオマスボイラの導入・熱利用の事業化可能性等について検討し、具体化スケジュールを構築します。

事業化プロジェクトの全体スケジュール

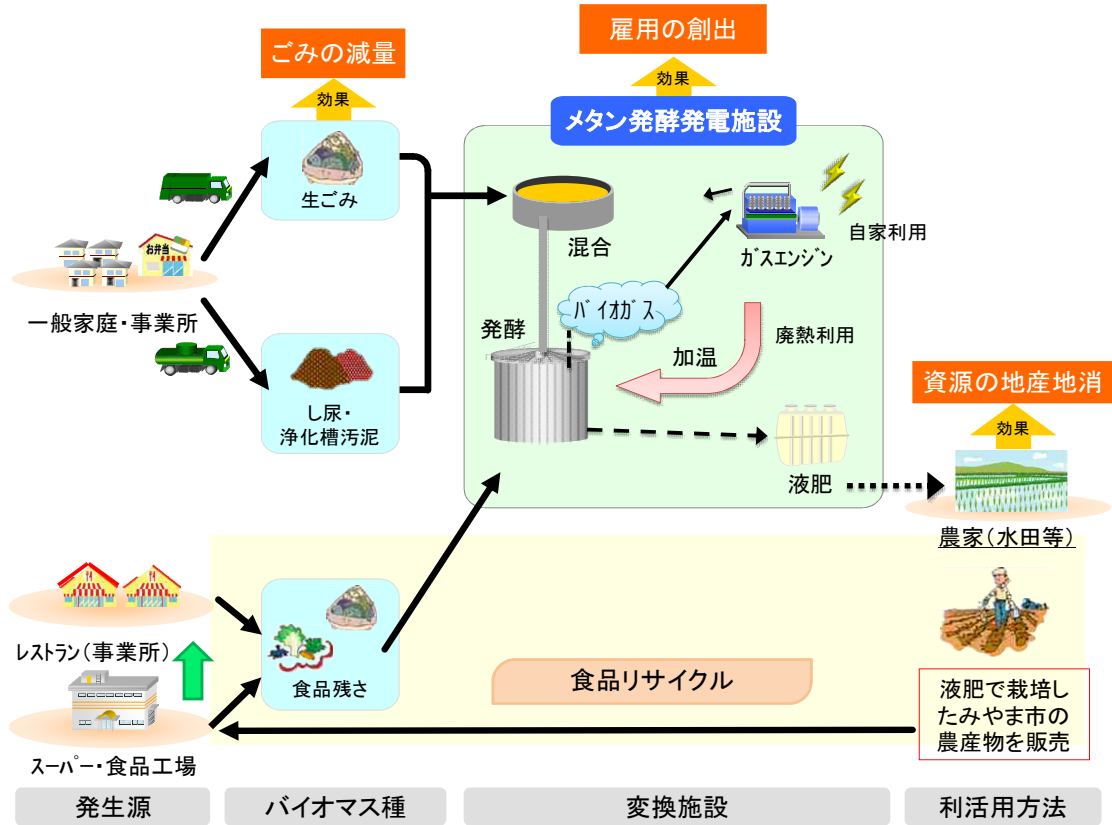
プロジェクト		区分	平成26年度	5年以内	10年以内
Ⅰ	メタン発酵発電液肥化	メタン発酵施設	—	施設整備・稼働 (H30年度)	→
		生ごみ分別・収集	分別・収集モデル (310世帯対象)	全世帯で実施 (H30年度)	→
		液肥の利活用	液肥散布・栽培試験	利活用開始 (H30年度)	→
Ⅱ	紙おむつ資源化	紙おむつ分別・収集	分別・収集モデル	分別・収集開始	→
Ⅲ	BDF製造	廃食用油の回収	回収	回収拡大	→
		BDF製造施設	—	—	施設整備・稼働 (H31年度以降)
		菜の花の栽培	栽培モデル	面積拡大	→
		菜種油の製造	外注	→	施設整備・稼働 (H31年度以降)
Ⅳ	はたき海苔資源化	資源化方法の研究	協議会発足	→	
		はたき海苔資源化	—	資源化	-----→
Ⅴ	木質熱利用	導入検討	計画検討	→	
		熱利用施設	—		施設整備・稼働 (未定)

# 事業化プロジェクトの内容

## I メタン発酵発電液肥化プロジェクト

現在焼却処理されている家庭・事業系の生ごみ及び浄化処理されているし尿・浄化槽汚泥の資源化を目指すとともに、循環型社会の形成・農業の振興を推進します。

発生するメタンガスはガスエンジンにて発電を行い電気・熱として施設内で自家消費します。生産される液肥は、市内の農地に供給します。



### ■ 原料調達計画

本市におけるメタン発酵発電・液肥化施設の原料（将来調達量）を下表に示します。

生ごみ・食品廃棄物については、市内で発生している家庭系・事業系の生ごみ及び食品工場等の食品残さを対象とし、その内約7割を回収する見込みとしています。

対象原料	年間賦存量 (H30)	年間調達量	1日平均 調達量	1日最大 調達量
生ごみ ・食品廃棄物	家庭系	2,000t/年		
	事業系	900t/年	3,000t/年	8.2 t/日
	産業系	1,300t/年		10t /日
し尿	14,000t/年	14,000t/年	38.4 t/日	42 t/日
浄化槽汚泥	26,000t/年	26,000t/年	71.2 t/日	78 t/日
合計	44,420t/年	43,000t/年	117.8t/日	130t/日

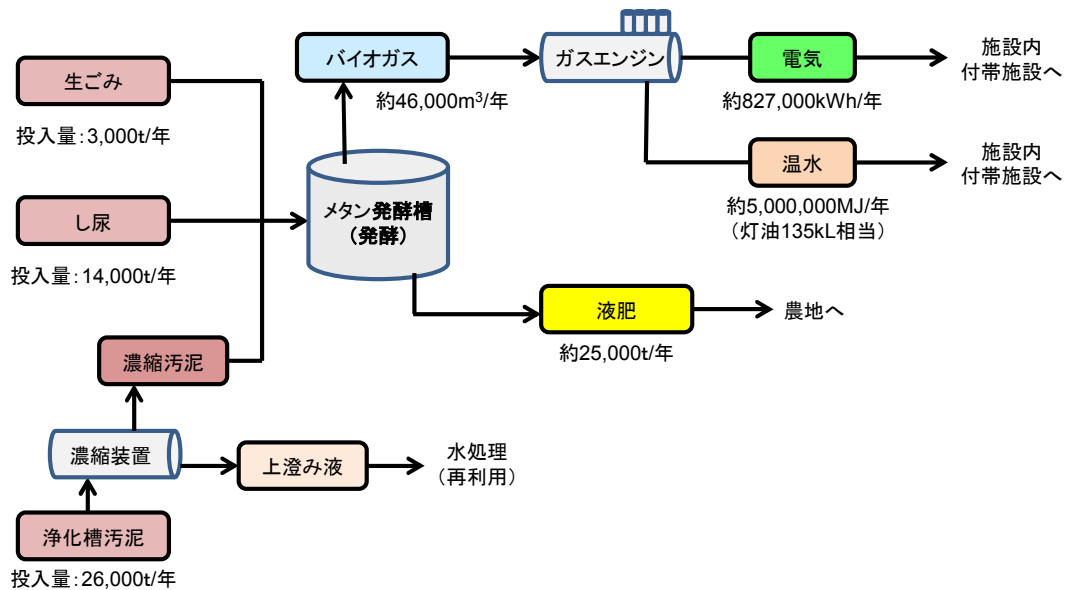
# 事業化プロジェクトの内容

## ■ 製品利用計画

メタン発酵発電・液肥化施設からは、メタン発酵時に発生するメタン濃度約 60%のバイオガスと、発酵後の残さとなる消化液・液肥が発生します。

バイオガスは、ガスエンジンに投入し、発電を行います。発電する電気は、施設内・付帯施設（管理棟など）の電力として使用します。また、ガスエンジンから得られる排熱を温水に変え、施設内・付帯設備（管理棟などの暖房）の熱源として活用します。

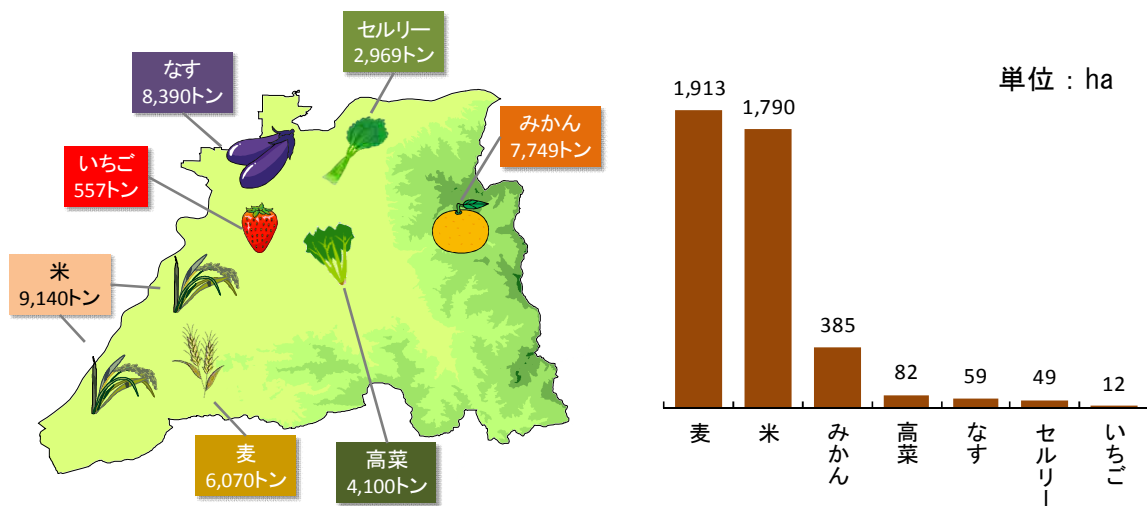
消化液・液肥は、農業用の液肥として活用、メタン発酵に向かない生ごみは堆肥化します。



## ■ 液肥利用計画

本プロジェクトにおいて、製品となる液肥は約 25,000 t/年発生する見込みであり、散布先の農地を年間で約 400ha 確保する必要があります。本市は農業の盛んな地域であり、主要な散布対象となる水稲 1,790ha、麦 1,913ha の面積を有しております。これは、液肥の散布面積の約 10 倍に相当する面積であり、十分確保できる状況にあります。

主な農産物の生産量・栽培面積（平成 24 年）



# 事業化プロジェクトの内容

## Ⅱ 紙おむつ資源化プロジェクト

使用済み紙おむつは、水溶化処理され、再生パルプ、プラスチック、汚泥へと分離され、それぞれが建築資材、固形燃料、土壌改良剤へと生まれ変わります。



## Ⅲ BDF製造プロジェクト

廃食用油から、BDFを製造し、メタン発酵施設の加温用ボイラー、収集車・フォークリフト等の燃料として利用します。製造過程で、副生成物としてグリセリンが発生するため、メタン発酵施設へ投入し、資源化します。また、メタン発酵発電施設で製造される液肥を活用し、菜の花を栽培する菜の花プロジェクトを実施し、普及啓発に繋がります。

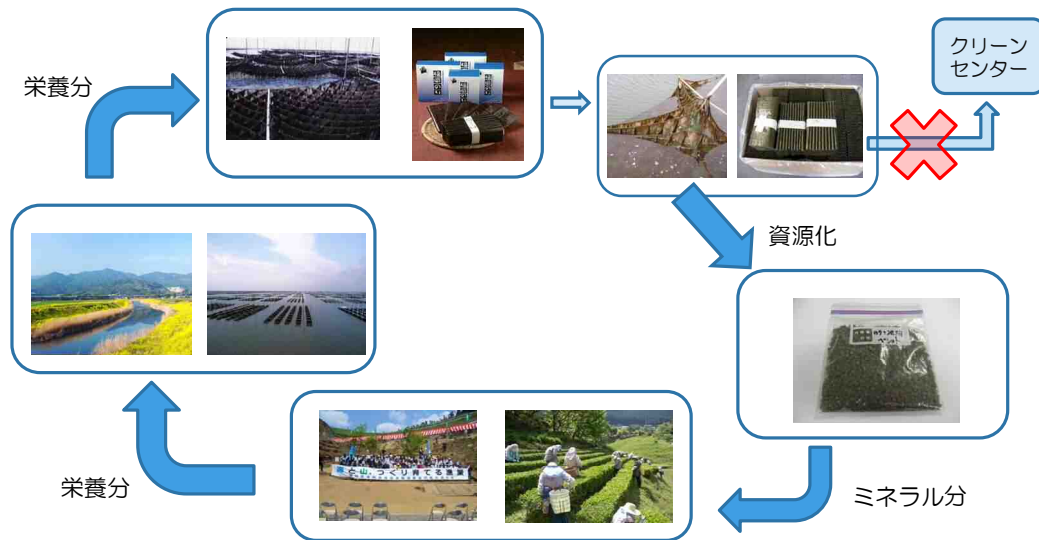
<p>小学生を対象に環境教育を実施 (H25.4)</p> 	<p>「菜の花オイル」を販売 (H26.8)</p> 
<p>大木町から提供の液肥を散布 (H25.9)</p> 	

# 事業化プロジェクトの内容

## IV はたき海苔資源化プロジェクト

現在、柳川市と共同で建設するごみ焼却場の基本設計等を行っている状況であり、合わせて余熱を利用したはたき海苔の資源化についても検討しているところです。

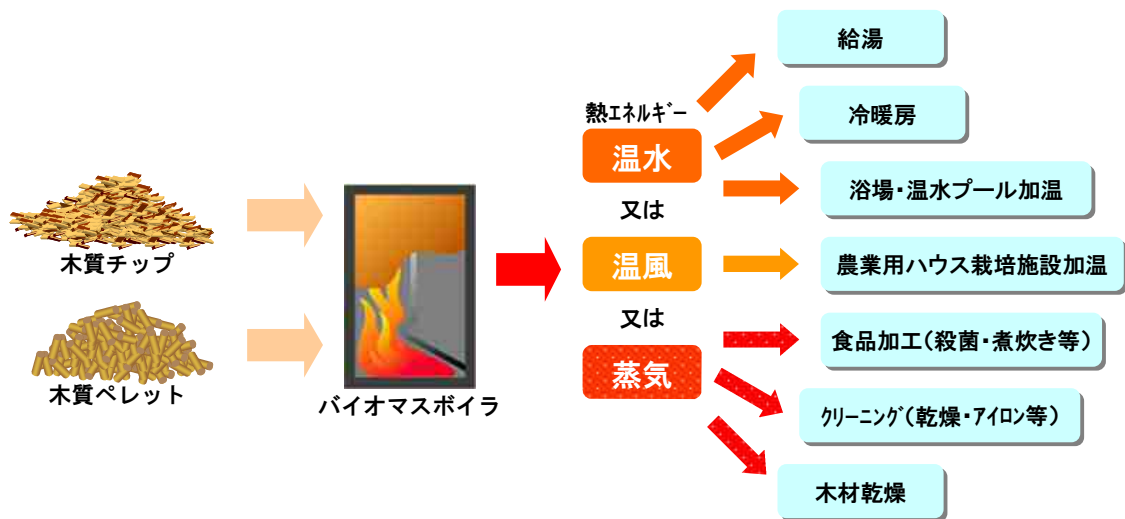
それまでは、みやま市単独で既設の農業用ハウス・堆肥化施設を活用し、乾燥・堆肥化を行い、農業へ活用する予定です。



「海の恵み」を「大地」へ、そして再び「海」へ！

## V 木質資源プロジェクト

市内熱利用施設の熱源として、木質バイオマスボイラを導入し、域内で発生する剪定枝等の木質バイオマスの活用を検討します。

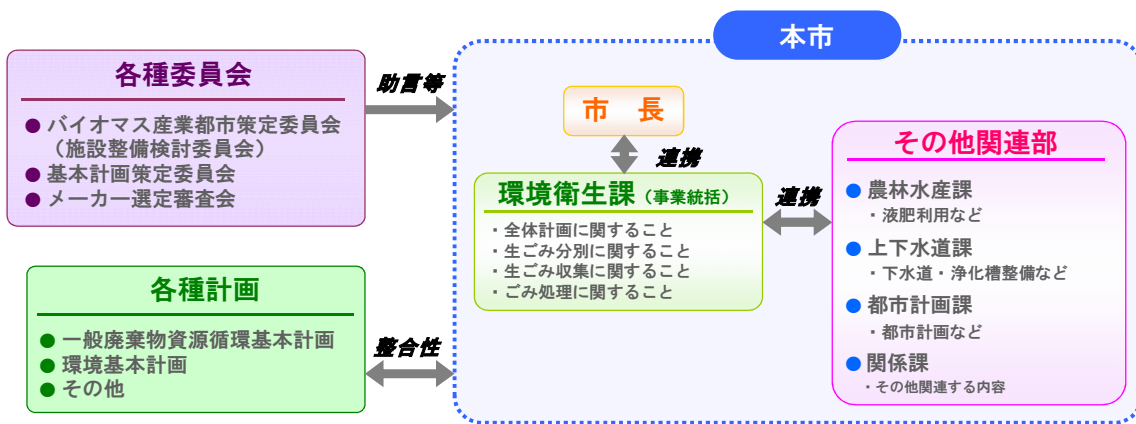


## 計画期間

本構想の計画期間は、平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 年間とします。本構想は「第 1 次みやま市総合計画」等の他の計画との整合及び連携を図りながら、今後の社会情勢等の変化に応じ、必要であれば見直すものとします。

## 事業実施体制

市は、「バイオマス産業都市構想」の事業化プロジェクト実行のために構想に掲げている各プロジェクトを、環境衛生課が中心となり、関係課で分担し、市民・生ごみ排出事業者、農業従事者と連携を図りながら取り組みます。



## 利活用効果

- ① 地域産業振興・雇用の創出
  - ・ 地域食品産業の生ごみ資源化により、処理費用低減、雇用の確保
  - ・ みかん選果場等から発生する選別くず等農業残渣の資源化
  - ・ 液肥による農家支出削減、農作物のブランド化
  - ・ 雇用の創出：メタン施設 26 人

- ② 地域循環型エネルギーの強化

メタン発酵 発電施設	発電量	約 827 MWh/年
	熱発生量	約 5,000 GJ/年
BDF	製造量	約 8,000 L/年

- ③ 温室効果ガス削減：1,314 t-CO<sub>2</sub>/年  
(現行の 8%削減)

- ④ 付帯事業による相乗効果

メタン発酵発電施設を土台として、花公園やリサイクルセンター等の様々な付帯事業による循環のまちづくりを目指します。





---

みやま市バイオマス産業都市構想 概要版

平成 26 年 7 月

みやま市 環境経済部 環境衛生課

〒835-8601 福岡県みやま市瀬高町小川 5 番地 TEL 0944-64-1521

---

<a href="#">くらし・手続き</a>	<a href="#">子育て・教育</a>	<a href="#">健康・福祉</a>	<a href="#">観光・文化・スポーツ</a>	<a href="#">産業・ビジネス</a>	<a href="#">市政情報</a>
-------------------------	------------------------	-----------------------	----------------------------	-------------------------	----------------------

[HOME](#) [くらし・手続き](#) [エネルギー](#) みやま市・大木町 持続可能な循環型社会の構築に係る包括協定書締結式

くらし・手続き
<a href="#">届け出・証明</a>
<a href="#">税金</a>
<a href="#">水道・下水道・浄化槽</a>
<a href="#">ごみ・環境</a>
<a href="#">エネルギー</a>
<a href="#">エネルギーとしかあわせの見えるまちづくり</a>
<a href="#">住宅用太陽光発電システム設置事業補助金</a>
<a href="#">HEMS設置事業</a>
<a href="#">みやま市は『Fun To Share』に参加しています</a>
<a href="#">平成28年10月4日【豊後大野市】・地域再生可能エネルギー活用に向けた連携協定書調印式</a>
<a href="#">『第9回南校区まちづくり文化祭』に参加しました</a>
<a href="#">『道の駅』にエンタメサイネージを導入しました</a>
<a href="#">『第19回水上文化祭』に参加しました</a>
<a href="#">平成29年1月16日【肝付町】・おおすみ半島スマートエネルギー株式会社設立記者発表</a>
<a href="#">日独自体エネルギー会議 in みやま【後記】</a>

みやま市・大木町 持続可能な循環型社会の構築に係る包括協定書締結式

平成29年4月20日、みやま市は、生ごみの資源化など先駆的な取り組みで循環のまちづくりを進めている三潞郡大木町と「持続可能な循環型社会の構築に係る包括協定」を締結しました。



左から、荒巻隆伸みやま市議会副議長、西原親みやま市長、石川潤一大木町長、松枝友久大木町議会議員

みやま市は、平成30年度にメタンガスと液肥を抽出するバイオマスセンターを稼働させる予定ですが、大木町では同様の施設・おおき循環センター「くるるん」が10年前から稼働しています。両市町が協力することで、施設のメンテナンスなどで相互支援が可能になるほか、みやま市の電力事業などお互いの強みを活用しながら循環型社会を構築していきます。

石川潤一大木町長は「大変心強いです。生ごみ分別は町民の生活に浸透。液肥もこの地域の農作物になくはならないものとなっています。今後は、お互い協力しながら環境先進地域を目指していきます」とあいさつ。西原市長は「バイオマス施設やエネルギーの相互支援協力が留まらず、『ひと・もの』の交流も活発に行っていきたい」とあいさつしました。

また、この協定に基づき、大木町の10施設が7月からみやまスマートエネルギー株式会社の電力に切り替わる予定です。



大木町のメタン発酵施設・おおき循環センター「くるるん」

このページに関するお問い合わせ  
 発行部署：環境経済部／エネルギー政策課  
 〒835-8601 みやま市瀬高町小川15番地  
 電話番号：0944-64-1545 / FAX：0944-64-1546

<a href="#">くらし・手続き</a>	<a href="#">子育て・教育</a>	<a href="#">健康・福祉</a>	<a href="#">観光・文化・スポーツ</a>	<a href="#">産業・ビジネス</a>	<a href="#">市政情報</a>
-------------------------	------------------------	-----------------------	----------------------------	-------------------------	----------------------

[HOME](#) [産業・ビジネス](#) みやま市 野菜用液肥の使い方マニュアル

<b>産業・ビジネス</b>
<a href="#">企業誘致に関すること</a>
<a href="#">商工業</a>
<a href="#">農林水産業</a>
<a href="#">労働・雇用</a>
<a href="#">入札・契約</a>
<a href="#">土木・建築</a>
<a href="#">広告事業</a>
<a href="#">みやま市 野菜用液肥の使い方マニュアル</a>

みやま市 野菜用液肥の使い方マニュアル

環境衛生課

みやま市では、平成30年度より生ごみ・し尿・浄化槽汚泥を資源として活かすバイオマスセンターを稼働させ、液体の肥料（液肥）を製造します。

液肥は完熟堆肥のような有機質で、即効性の肥料成分を含む優れた肥料です。

当市は平成25年度から大木町の液肥を分けていただき、液肥の普及啓発を進め、この度、佐賀大学田中教授のご指導のもと家庭菜園向けの液肥の使い方マニュアルが完成しました。

市内に設置した液肥タンクから各自でお試しになり、液肥を利用した野菜作りをお楽しみください。

液肥タンク設置場所
飯江川衛生センター
西鉄開駅北側
開小学校東側
添付ファイル
<a href="#">みやま市液肥野菜栽培の手引き.pdf</a> (PDFファイル:2105.3KB)

このページに関するお問い合わせ

発行部署：環境経済部／環境衛生課  
〒835-8601 みやま市瀬高町小川15番地  
電話番号：0944-64-1521 / FAX：0944-64-1546

[お問い合わせフォーム](#)



PDFファイルをご覧になるには、Acrobat Readerが必要となります。  
お持ちでない方は、アイコンをクリックしてAdobe社のサイトからダウンロードしてください。

ジャンルから探す

[出産・子育て](#) / [就職・転職](#) / [住まい・引越し](#) / [ゴミ・リサイクル](#) / [健康・福祉・介護・医療](#) / [結婚・離婚](#) / [お悔やみ](#)

[くらし・手続き](#) [子育て・教育](#) [健康・福祉](#) [観光・文化・スポーツ](#) [産業・ビジネス](#) [市政情報](#)  
[お問い合わせ](#) [ホームページについて](#) [著作権・リンク](#) [個人情報の取扱い](#) [サイトマップ](#)

みやま市役所  
〒835-8601 福岡県みやま市瀬高町小川15番地  
TEL：0944-63-6111 / FAX：0944-64-1503  
[開庁時間] 午前8時30分～午後5時（土・日・祝日、12月29日～翌年1月3日を除く）

Copyright © Miyama City. All Rights Reserved.

不妊治療費用の助成制度を紹介します

近年、女性の社会進出とともに初婚年齢や出産年齢は上昇しています。30代から出産、子育てを選



【不妊検査と治療】

不妊症の検査は、月経周期に合わせた検査をしますので、全ての検査が終了するまでに約1〜2カ月程度かかります。

■ 一般不妊治療

タイミング療法、人工授精、場合によっては女性側の手術などがあります。

■ 生殖補助医療(A.R.T)

一般不妊治療で妊娠できない場合、その先の治療として体外受精や顕微授精などがあります。

【不妊や女性の体などに関する相談】

専門の医師・助産師などが面接や電話相談を受け付けています。相談場所 北筑後保健福祉環境事務所分庁舎(久留米市合川町)

【みやま市の不妊治療費用助成】

不妊治療の経済的負担の軽減を図るため、費用の一部を助成する制度です。

- 対象となる治療 特定不妊治療等(体外受精および顕微授精または特定不妊治療に至る経過の一環として行われる男性不妊治療)
対象者 次の要件をすべて満たす夫婦
1 福岡県の特定治療支援事業により、福岡県知事から助成決定を受けていること。
2 戸籍上の婚姻関係であって、申請日前に1年以上夫婦もしくはいずれかがみやま市の住民基本台帳に記録されていること。
3 市税および国民健康保険税の滞納がないこと。
助成内容
1 特定不妊治療等の費用から、福岡県の特定治療支援事業による助成金の額を控除した額。1回につき5万円を限度。
2 体外受精および顕微授精と男性不妊治療の両方で福岡県の助成を受けた場合は、それぞれ5万円を限度。
※申請方法や助成内容の詳細についてはお問い合わせください。(市ホームページも参照ください。)

今月の逸品! ピーナッツバター和え



Table with 2 columns: Material (材料) and Amount. Includes items like りんご (apple), きゅうり (cucumber), 大根 (daikon), 人参 (carrot), ピーナッツバター (peanut butter), 薄口しょうゆ (thin soy sauce), and 砂糖 (sugar).

作り方
①りんごは薄切りにする。大根は千切りにする。きゅうりは小口切りにし、軽く塩をふり、しんなりしたら絞る。人参は千切りにし、ゆでる。
②ボウルにAを入れ①の野菜を和え器に盛る。

～みやま市食生活改善推進協議会～ 毎月19日は食育の日

笑顔でいきいき

【不妊症】
不妊症とは、日本産科婦人科学会の定義によると、妊娠を望む健康な男女が通常の性生活を営んでいるにも関わらず1年以上妊娠しない状態であるといわれています。
女性の卵子は生まれる前から減少していきます。また、成人男性の精巣は生涯を通じて精子をつくりませんが、加齢とともに精液量や精子運動率等は低下するといわれています。

一人ひとりの心からエコ未来に光さす

生ごみ収集モデル事業

4年間で1,102世帯の皆様に参加いただきました。ご協力ありがとうございました。



平成25年度より実施している生ごみ収集モデル事業は、本年度で4年目となり最後のモデル事業となりました。4年目のモデル事業は、昨年9月から11月まで3カ月間、市内3地区(本郷二、原団地、北関(大谷、北関下))で実施しました。

さまざまなお意見・ご感想を寄せていただきました

燃やすごみが減ってよかったです。

地球温暖化防止、リサイクルを考える時に資源循環は絶対です。市が取り組むのであればぜひ協力したいです。

プラスチック収集、生ごみ収集で燃やすごみが少なくなり、大袋から小袋に変わりました。

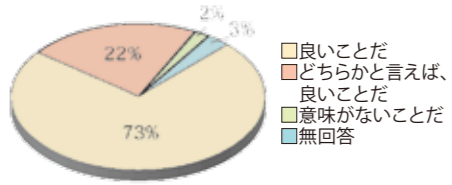
生ごみをリサイクルすることによって燃やすごみを出すペースがずいぶん減ったと実感しました。

思ったよりスムーズに生ごみ分別できました。いろいろと勉強になりました。

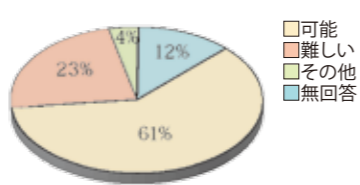
高齢世帯など生ごみ分別が難しい世帯のことも考慮すべきだと思われます。

生ごみ収集モデル事業アンケート結果

生ごみを資源として活用することをどう思いますか?



「生ごみ週2回」「燃やすごみ週1回」「プラスチック類週1回」の計4回に変更することは可能ですか?



バイオマスセンター建設 NEWS



バイオマスセンター建設予定地(旧山川南部小学校グラウンド)



工事車両出入り口

市は、焼却処理されている家庭・事業系の生ごみ、及び浄化処理されているし尿・浄化槽汚泥を資源化するバイオマスセンターの建設を進めています。

平成30年の稼働に向けて、校庭の樹木や遊具、構造物などの撤去、工事車両が進入するゲート・スロープの整備、及び国道443号沿いに仮囲いを設置し、工事がいよいよ始まります。

工事期間中は皆様にご迷惑をおかけいたしますが、ご協力よろしくお願いいたします。



バイオマスセンター完成予想図

平成 30 年 4 月スタートに向けて

## 「生ごみ分別説明会」実施中!

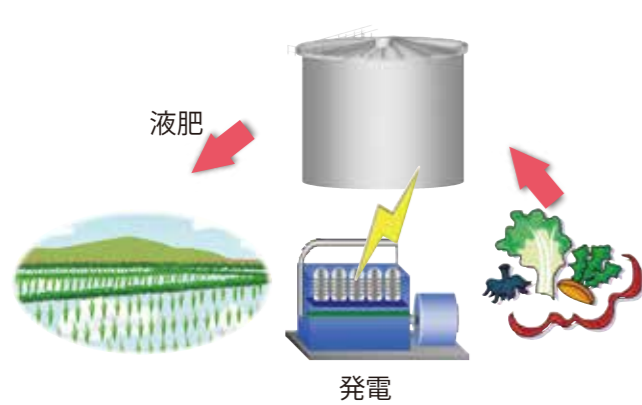
市では、ごみを資源としていかす循環のまちづくりの拠点となるバイオマスセンターの整備を、平成 30 年度稼働に向けて進めています。

バイオマスセンターは、現在、焼却処理している生ごみ(台所のごみ)を、メタン発酵させ、電力と有機肥料を生み出す施設です。

生ごみを資源化するための分別説明会を、各校区から選出されているエコサポーターにも協力していただき、12 月までに全行政区(区の公民館がある 200 カ所)で開催します。

説明会では、生ごみ分別の必要性、分別の仕方を説明し、10 世帯に 1 個を目安に設置する生ごみ収集桶の場所について話し合ってください。

生ごみの資源化は、市民一人一人のご協力により大きな成果を生み出す事業です。区長さんから説明会開催のお知らせがありますので、是非ご参加ください。



生ごみ分別説明会の様子

### 第 4 回みやま菜の花まつりを開催しました

4 月 1 日、高田町の黒崎開南区運動広場公園で菜の花まつり(市環境衛生組合連合会主催)が行われました。菜の花の栽培を通じて資源循環型の社会を作っていくことを目的とした「菜の花プロジェクト」の紹介をはじめ、菜の花生産者の紹介、開小の 4 年生が同プロジェクトで学んだことや自分たちで作詞した「菜の花オイルの歌」を発表しました。また、料理研究家・渡辺貴子さんによる菜の花オイルの利用についての講話、共にみやま市出身のギタリスト・壇遠さんと歌手・ちひろさんのコンサートも行われました。

開小4年生が「菜の花オイルの歌」を披露



菜の花生産者 山田さん、永江さん、金子さん、富重さん(左から)

#### 菜の花オイルの歌♪

菜の花のオイルはみやま市だけで作られた無農薬でおいしいよ、体にとってもいいんだよ。心をこめて育てています。いろいろな料理につかえます。菜の花のオイルをみなさんたくさん使ってくださいね。菜の花のオイルは四人の方が作られた。特別でおいしいよ、種から育てているんだよ。心をこめて育てています。サラダやスープに使えます。菜の花のオイルをみなさんたくさん使ってくださいね。



## タカ食品工業株式会社

誰もが親しみと懐かしさを覚える学校給食のジャム、マーガリン。学校給食用小袋ジャムの業界トップシェアを誇り、現在では製菓・製パン用のピューレなども製造しているタカ食品工業株式会社をご紹介します。

世界中から厳選したフルーツ素材を加工し、製菓製パン材料としてお届けしています。ここ数年は国産フルーツを原料とした桜シリーズフルーツピューレを発売、その品種の多さと風味で日本一を目指しています。



昭和 50 年には、首都圏の生産拠点として栃木工場を建設し、その後洋菓子向けのジャムやピューレの製造を開始して、新しい分野を確立しました。

昭和 22 年瀬高町八幡町で創業し、今年で 70 周年を迎えました。当初はマーガリン(旧称人造バター)を中心に作っていたため、タカバターやタカマーガリンと呼ばれていました。その後、創業者大塚栄が学校給食用の小袋ジャム(タカベビー)の包装機を発明、全国に販路を広げ、給食の普及に伴いトップシェアとなることができました。

企業概要・歴史



### タカ食品工業株式会社

みやま市瀬高町小川 1189-1  
電話番号：0944-62-5686  
事業内容：食品製造販売(ジャム・ピューレ・マーガリン・クリーム)  
創業：昭和 22 年  
従業員数：全社 205 名(平成 29 年 2 月現在)  
<http://www.takafoods.co.jp/>

代表者のメッセージ  
会社経営の目的として社会に役立つことを掲げています。まずは安全安心で美味しい食品をお届けすることです。同様に社員の人的な成長も心がけています。そのために教育訓練の機会を増やし、社内でのスポーツクラブや交流イベントを大事にしています。毎年弊社のグラウンドで開催していただく清水山ロードレース大会でぜひご来場ください。皆様にも積極的に楽しんでください。あなたもタカ食品で輝いてみませんか。



おつかただし 大塚 直 代表取締役社長  
【プロフィール】  
昭和 50 年 4 月入社。  
昭和 62 年 4 月社長就任、  
現在に至る。66 歳。



### ハローワーク大牟田求人情報

みやま市内の求人情報を抜粋して掲載しています。詳しい情報を知りたい方、面接を希望される方、求人のご相談は、ハローワークへ問い合わせください。

■有効求人倍率 2月=1.56倍(前月=1.48)

求人番号	求人者名	職種	採用人数	賃金(万円)	事業内容
3295571	(株)福岡サンレイクゴルフ倶楽部	フロント係	1	13.5 ~ 18	ゴルフ場経営
2425971		キャディ	2	15.2 ~ 21.2	
3166571		ゴルフコースの維持管理業務	1	14.1 ~ 18.4	
3080771	瀬高交通自動車(株)	タクシー運転士(嘱託)	2	11.6 ~ 15	タクシー業(介護タクシー)、福祉バス・スクールバス運行
3240271	西日本高速道路リテール(株)山川売店	スナックコーナー店員	1	時給	有料道路パーキングエリア内の飲食物販
3241971		ショップ店員	1	830 円 ~ 980 円	

※なお、紹介は随時行っておりますので、採用済みとなっている場合がございます。あらかじめ、ご了承ください。

■ハローワーク大牟田(大牟田公共職業安定所) (TEL.53-1551)